

第三者評価結果の公表事項（乳児院）

①第三者評価機関名

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

②施設名等

名称： 福井県済生会乳児院

種別： 乳児院

施設長氏名： 施設長 藤井 知

定員： 23人

所在地： 福井県

③実施調査日

平成26年10月6日（月）、15日（水）

④総評

◇特に評価が高い点

○養育・支援の基本

発達段階に沿った「養育マニュアル」が作成されている。施設独自に作成した「子どもと共に育っていくための自己評価チェックリスト」を活用し毎月全職員が評価を行っている。

○継続性とアフターケア

計画的なならし保育、家庭支援専門相談員や担当保育士の措置変更先の訪問、退所後も里親会や子育て支援センターに同行など、措置変更後も子どもや保護者の生活が安定するよう配慮している。家庭引き取りにあたっては、児童相談所と十分協議し、保護者の意向を踏まえ退所時期等を決めている。退所後の生活も含めて、保護者の不安軽減や養育意欲向上のために、支援計画を策定し、保護者と共有しながら、おむつ交換の練習をするなどの具体的なプログラムが作成されている。

○職員の資質向上

職員は毎月、子どもへの対応内容を4段階で評価する「子どもと共に育っていくための自己評価チェックリスト」を上司に提出しており、ケースカンファレンスには職員全員が参加し、乳児の現況および課題等を共有している。

○施設長の責任とリーダーシップ、経営状況の把握

施設長は長年にわたり社会福祉に携わってきた専門性と経験を活かし、ケースカンファレンス等で養育・支援の質の評価、分析を行うとともに、その質の向上に向けた取組に指導力を発揮している。

○人事管理の体制整備、実習生の受入れ

職員処遇の充実を図るため、組織内に「コンプライアンス相談窓口」を設置し、職員が悩みごとなどを自由に相談できる体制を整備している。

◇改善が求められる点

○心理的ケア

乳幼児や保護者に必要な心理的支援を行うため心理職を配置するとともに、自立支援計画に基づき問題解決が図られるよう、具体的な心理的支援の実施が望まれる。

○継続性とアフターケア

退所に子どもが安定した生活を送ることができるよう、児童相談所を中心に家庭と身近な行政機関や専門職等と連携し、保護者が信頼関係を築けるよう支援を行うことが望まれる。

○アセスメントの実施と自立支援計画の策定、子どもの養育・支援に関する適切な記録

自立支援計画に基づくアセスメントの定期的な見直しの時期等について手順を明文化することが望まれる。また、自立支援計画の見直しに係る一連の仕組みや、支援の結果についての評価、分析、検証を行う仕組みを構築することが望ましい。

○職員の資質向上

職員個々の資質向上を図るため、一人一人の経験年数や知識・技術水準に合わせた教育・研修計画を策定することが望まれる。

○運営理念、基本方針の確立と周知、中・長期的なビジョンと計画の策定

単年度事業計画は運営・人事・施設整備・地域活動など中期計画の内容を反映させた具体的な実施計画とすることが望ましい。

○施設長の責任とリーダーシップ、経営状況の把握

施設経営の状況を客観的、適正に把握・分析し、課題改善に向けた取組の一助とするため、公認会計士等専門家の外部監査を定期的実施することが望ましい。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

今回一回目の第三者評価を受審いたしまして、施設の現状、課題を明らかにすることが出来ました。新たな気づきや改善点が確認できたことは大きな収穫となりました。今回の受審結果を真摯に受け止め、毎年の自己評価で各項目を再点検し、質の高い施設運営・質の高い養育が提供できるよう努力し改善して行きたいと思っております。

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（乳児院）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① 子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	a
② 子どもの遊びや食、生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	a
③ 子どもの発達を支援する環境を整えている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 子どもの発達段階に沿った「養育マニュアル」が作成されている。施設独自に作成した「子どもと共に育っていくための自己評価チェックリスト」を活用し毎月全職員が評価を行っている。また、個々の子どもの発達状況に応じた保育計画が作成され、季節に応じた食事や院外などでの活動なども取り入れられている。	

(2) 食生活	第三者 評価結果
① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a
② 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a
③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a
④ 栄養管理に十分な注意を払っている。	a
(3) 衣生活	
① 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a
(4) 睡眠環境等	
① 乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	a
② 快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	a
③ 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
(5) 発達段階に応じた支援	
① 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
② 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 授乳や食事における留意事項、離乳食の与え方、衣類管理、入浴・沐浴、おむつ交換などについて、「養育マニュアル」や「自己評価チェックリスト」が作成され適切な支援がなされている。また、乳幼児が材料を混ぜたり調理の場面を見るなどのクッキング活動を取り入れ、食への関心を高める工夫がなされている。管理栄養士によって、カロリー、栄養のバランスやアレルギーに配慮した献立が作成されている。乳児は15分おき、幼児は30分おきに、睡眠時の体勢などが記録されている。さらに、月毎に週別の保育計画が立てられ、戸外での遊びや身体遊び、五感を育てる遊びなどが取り組まれている。	

(6) 健康と安全	第三者 評価結果
① 一人一人の乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a
③ 感染症などへの予防策を講じている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 子どもたちの日々の健康状態（体温や便の状態など）が一目でわかるよう記録している。嘱託医による健康診断は毎月行っており、その際には看護師も立ち会い、日々の保育の状況も含めて、子どもの総合的な診察、適宜予防接種等を行っている。必要な場合は、嘱託医（小児科医）から他科や他院へつなげてもらう体制も整っている。感染症などに関するマニュアルを整備し、緊急時には済生会病院の協力が得られる体制となっている。また、済生会病院の看護師から院内研修として感染症等に関する研修を受けたり、院外研修として、応急処置等の知識・技術を全職員が受けたりしている。	

(7) 心理的ケア	第三者 評価結果
① 乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 乳幼児や保護者に対する心理的支援に関しては、必要に応じて児童相談所の心理判定員による心理判定や心理的なケアについてのアドバイス、院内研修などが行われている。 【改善が求められる点】 乳幼児や保護者に必要な心理的支援を行うため心理職を配置するとともに、自立支援計画に基づき問題解決が図られるよう、具体的な心理的支援の実施が望まれる。</p>	

(8) 継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れを行うに当たり、継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰の支援を行っている。	a
③ 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 計画的なならし保育、家庭支援専門相談員や担当保育士の措置変更先の訪問、退所後も里親会や子育て支援センターに同行など、措置変更後も子どもや保護者の生活が安定するよう配慮している。家庭引き取りにあたっては、児童相談所と十分協議し、保護者の意向を踏まえ退所時期等を決めている。退所後の生活も含めて、保護者の不安軽減や養育意欲向上のために、支援計画を策定し、保護者と共有しながら、おむつ交換の練習をするなどの具体的なプログラムが作成されている。 【改善が求められる点】 退所後に子どもが安定した生活を送ることができるよう、児童相談所を中心に家庭と身近な行政機関や専門職等と連携し、保護者が信頼関係を築けるよう支援を行うことが望まれる。</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 子どもの協働養育者として、家族と信頼関係を構築するために、面会時や外泊前後には必ず担当者や家庭支援専門相談員が子どもの様子や家族の思いなどを確認している。また、施設内外の行事等については、掲示や案内状で随時家族に知らせている。面会や外泊などは保護者と話し合い、計画的に実施し、面会から外出、外泊へと段階を重視して親子の関係性構築や保護者の養育力向上に努めている。 【改善が求められる点】 家庭支援専門相談員をケアワークとは独立した専門職として配置し、その役割を明示することが望まれる。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的な実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 コンプライアンスに関する勉強会が行われており、職員には個人情報保護や守秘義務の遵守について周知されている。また、夜勤者と日勤者の朝の申し送りは口頭で報告を行うとともに、「申し送り簿」によって共有されており不在の職員には伝言方式を取っている。 【改善が求められる点】 自立支援計画に基づくアセスメントの定期的な見直しの時期等について手順を明文化することが望まれる。また、自立支援計画の見直しに係る一連の仕組みや、支援の結果についての評価、分析、検証を行う仕組みを構築することが望ましい。</p>	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
(2) 保護者の意向への配慮	
① 保護者の意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 乳児院検討会やケースカンファレンスを通じ、養育・支援の内容について振り返りの機会を設けている。また、全職員が毎月「子どもと共に育っていくための自己評価チェックリスト」で確認したり、院内・院外研修に参加するなど、支援の質の向上に努めている。</p> <p>【改善が求められる点】 個人情報管理に係る規程の中に、居室や手紙開封について同意を得る手続きを明記したり、子どものプライバシー保護に関する研修を行うなど、職員の子どもへのプライバシー保護に対する意識を一層高めることが望まれる。</p>	
(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
① 保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて保護者等にわかりやすく説明している。	a
(4) 保護者が意見や苦情を述べやすい環境	
① 保護者が相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a
② 苦情解決の仕組みを確立し、保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③ 保護者等からの意見等に対して迅速に対応している。	b
(5) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	c
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 入所時には、パンフレットを用いて、養育・支援の内容や施設での規則について保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p>【改善が求められる点】 保護者等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備することが望まれる。また、体罰等の起こりやすい状況等や不適切なかかわりの起こりやすい場面等に係る研修や話し合いを実施することを通して、体罰禁止の意識や不適切なかかわり防止の意識が今以上に徹底されることが期待される。</p>	

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 子どもの安全を脅かす事例については、乳児院検討会で課題や改善方法を話し合い、参加できなかった職員には回覧にて情報を周知し共有している。また、職員は、近くにある防災センターにて安全確保に関する研修を受けている。		

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	b
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	b
(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	c
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	b
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【改善が求められる点】 児童相談所など関係機関の機能や連絡方法のリストを作成するなど、それらの情報が職員間で共有できるような仕組みを構築することが望まれる。また、地域の福祉ニーズの把握に努め、施設の機能を活かして新たな事業に取り組むなど、地域の子育て支援事業一層の推進に期待される。		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上に努めている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 職員は毎月、子どもへの対応内容を4段階で評価する「子どもと共に育っていくための自己評価チェックリスト」を上司に提出しており、ケースカンファレンスには職員全員が参加し、乳児の現況および課題等を共有している。 【改善が求められる点】 施設の基本姿勢に沿い、職員個々の資質向上を図るため、一人一人の経験年数や知識・技術水準等に合わせた教育・研修計画を策定することが望まれる。また、職員が参加する研修が職員や組織にとって実効性のあるものとするため、定期的に職員が受講した個々の研修について評価・分析し、その結果を次の研修計画に反映することが望ましい。		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④ 運営理念や基本方針を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	a
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤ 事業計画を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 法人の基本理念に基づく施設の運営理念や養育方針・基本方針が明文化され、毎日の朝礼で唱和している。また、これらに基づき作成された法人の中期事業計画（平成25～29年度）には現状分析に基づく課題等が明記され、その実現（改善等）に向けた具体的な活動や数値目標等を掲げている。</p> <p>【改善が求められる点】 単年度事業計画は運営・人事・施設整備・地域活動など中期計画の内容を反映させた具体的な実施計画とすることが望ましい。また、計画を全職員に配布、説明し理解を促すとともに、計画管理を施設としての組織的な取組が望まれ、保護者等に対しても関係性などに配慮したうえで各計画を配布、説明することが望まれる。</p>	
(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	b
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 施設長は長年にわたり社会福祉に携わってきた専門性と経験を活かし、ケースカンファレンス等で養育・支援の質の評価、分析を行うとともに、その質の向上に向けた取組に指導力を発揮している。また、児童相談所等の関係機関と連携し、社会的養護に関する様々な情報を収集するとともに、試算に基づいた運営資料を作成し中期計画に反映している。</p> <p>【改善が求められる点】 組織全体として、経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みを継続的に実施するとともに、施設経営の状況を客観的、適正に把握・分析し、課題改善に向けた取組の一助とするため、公認会計士等専門家の外部監査を定期的実施することが望ましい。</p>	

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 養育・支援の質を確保、向上を図るために必要な人材や体制等に関するプランが中期計画に具体的に示されている。また、職員処遇の充実を図るため、福利厚生センターに加入するとともに、組織内に「コンプライアンス相談窓口」を設置し、職員が悩みごとなどを自由に相談できる体制を整備している。</p> <p>【改善が求められる点】 公平性、透明性の確保および職員の十分な理解のもと、客観的な基準に基づく人事考課等職員の研鑽や就業などの意欲高揚等を目的とする組織的な取組を期待する。</p>	
(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	a
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 【特に評価が高い点】 養育・支援に関する標準的な業務マニュアルをはじめ感染症や安全対策等様々なマニュアルが整備され、職員はこれらを共有し、共通認識をもって業務にあたっている。また、これらを年1回定期的に見直すとともに、毎月開催する安全対策や感染症対策等に関する各種委員会等で必要に応じ適時見直している。</p>	